

修士論文等で使用する ICT 技術と効果

松山 和弘

2014 年 11 月 13 日

1 私の研究状況

修士研究を行うにあたり、研究計画を立てる必要がありますが、現時点では、ざっくりとした方向性しか無い状況です。

まずは、先行研究を調査しつつ、研究計画案を準備しておき、入学が決まった後、指導教官と調整しながら具体的に進めていきたいと考えています。

2 「どの部分に ICT を使用できるか」の回答

2.1 文献検索

文献検索は、現状 CiNii、Google Scholar を使用しています。その他の文献検索の試す予定です。

2.2 文献リスト作成

文献リスト作成は、現状は text ファイルに作成しています。

今後は、論文の文書形式を考慮して、専用ソフトの使用を検討していく予定です。

2.3 論文の作成

現状、Microsoft Word, latex を使用しています。

論文の文書形式については、指導教官と調整しながら進めていくこととします。

3 文献検索

文献検索について、「そのはどのような技術か」、「どのような効果が考えられるか」を回答します。

3.1 文献検索はどのような技術か

論文のための文献検索は、OPAC, CiNii, Google Scholar 等がある。主題キーワードや著者名にて文献を検索することができる。

ただし、検索エンジンの検索結果を信頼しても良いかという問題がある。Google 等の検索エンジンを日常的に使用していると、検索エンジンでひっかからないものは、この世に存在しないと思ってしまうかねないという問題がある。

検索エンジンの検索方式は、普通は未公開であるため、利用者が検索結果の正当性を検証することが困難である。検索エンジン提供者が見せたくないものは、検索結果として見せなくすることが可能である。このため、単一の検索エンジンのみに頼るのは適切ではないと考えられる。

3.2 文献検索はどのような効果が考えられるか

主題キーワードや著者名にて文献を検索することができるため、文献検索を効率良く行うことができる。

ただし、主題キーワードの扱いについては注意を要する。

学際的な研究での文書検索を行う場合の主題表現の統一性の問題がある。

自然科学領域でかつ専門領域内の範囲内のみで、キーワード検索を行う場合は、主題表現のキーワードの使われかたの統一性がある程度とれているため、検索しやすい。

多くの専門領域にまたがる学際的な研究の場合、専門領域ごとに、キーワードの使われ方が異なる場合があり、文献検索上の困難と考えられる。この場合、キーワードを整理して、検索手法を工夫する等の対応が必要と思われる。